

PRESS RELEASE



やまがたの上質ないいもの。
その魅力をもっと伝えたい。
この新しいブランドマークを旗印に、
山形のいいものの魅力を伝えていきます。

令和6年2月7日

県政記者クラブ報道機関 各位

山形県産業労働部産業創造振興課

地域課題解決を通して事業創出を目指す
山形県ソーシャルイノベーション創出モデル事業

事業創出第11弾

畜産飼料の地域内循環を目指して
(株) アルファテック × (株) アイオイ 実証実験開始

令和4年度から実施している「ソーシャルイノベーション創出モデル事業」通称: Yamagata yori-i project(以後、yori-i project)では、新規事業創出の第11弾として、畜産業における飼料の地産地消の促進により畜産飼料の海外依存からを目指し、さらに消化性を高める加工技術によりサステイナブルな域内循環を実現するため、(株) アルファテックと(株) アイオイが連携し、アルファ化粉碎技術を活かした飼料を用いた発育の実証実験を開始することになりました。

つきましては、下記により記者発表を行いますので、取材・報道についてよろしくお願いたします。

記

日時: 令和6年2月9日(金) 14時~15時30分

場所: 鮭川村中央公民館 (鮭川村京塚)

- 出席者:
- 株式会社アルファテック 代表取締役 駒井雄一 氏
 - 株式会社アイオイ 代表取締役 五十嵐忠一 氏
 - 株式会社アルファテック創業者・イノベーター&イグゼクティブ・テクニカルアドバイザー、
山形大学工学部教授、YASS 高付加価値機能性フード生産部門リーダー 西岡昭博 氏
 - 山形大学農学部教授、YASS サステイナブルアグリ生産部門 堀口健一 氏
 - 山形大学アントレプレナーシップ教育研究センター センター長 教授 小野寺 忠司

■ 概要

山形県地域には米などの豊富な畜産向け農産資源があるが、地域での畜産への活用が十分できない状況となっている。この課題の解決に向け、山形大学工学部発ベンチャーの「株式会社アルファテック」と、全国に先駆けて国内の飼料米を用いて養鶏を実施し、山形大学農学部との共同研究の実績を持つ山形県鮭川村の「株式会社アイオイ」が連携し、アルファ化粉碎技術を活かした飼料を用いた発育の実証実験を行う。

加えて、山形大学アグリフードシステム先端研究センター（YAAS）とも連携を行い、域内農産物の高度利用を目指していく。

■ Yamagata yori-i project について

yori-i project は、産学官や産業などのセクターを超えた力を結集しデータを基に取り組む課題解決手法「コレクティブ・インパクト」を軸に、多様化する地域課題の解決やそれに伴う新規創業・事業創出を活性化していくプロジェクトです。活動に共感頂いた行政・企業・個人がボードメンバーとしてプロジェクトに参画しており、その数は現在、150（個人含む）に及んでいます。

<参考 URL> <https://yori-i.org/>

■ 今後の記者発表予定

2月13日（火）10時から11時 @金山町農村環境改善センター

テーマ：早生樹ヤマトダマの栽培によるバイオマス資源の確保

リーダー：(株) オウルテス

担当：産業労働部 産業創造振興課
スタートアップ推進室
室長補佐 渡邊 (023-630-2364)
報道監：産業労働部次長 岡崎